

リハビリテーション学部 理学療法学科 2022 年度活動報告

I. 理学療法学科の特色と養成人材像

高度化かつ多様化する保健医療分野において、理学療法士としての高い専門的知識と技術を備えると共に、身体に障害のある人に基本的動作能力を獲得させ、多様な生活者の健康寿命の延伸等を含めた QOL の維持・向上に貢献できる人材。さらに、理学療法のみならず、組織の経営・マネジメントの知識を身につけ、共生社会の実現と発展に貢献する実務リーダーとしての理学療法士を育成する。(ホームページより)

II. 理学療法学科専任教員(職位別 五十音順)

2022 年度は、新たに 1 名の専任教員を迎え、大学等の研究機関における研究実績が豊富な理論家教員に加えて、保健医療の現場で活躍する実務家教員を含め、総員 28 名にて広い視点より「共生社会」の実現に活躍できる人材育成を行う体制を整えた。

五十嵐 広明:教授(1 年生副担任)

岩本 浩二:教授(1 年生副担任)

江幡 真史:教授

清宮 清美:教授(学科長)

佐久間 肇:教授(学校医)

陶山 哲夫:教授(学長)

田畑 稔:教授(研究推進室長)

照井 直人:教授

西澤 達夫:教授

沼田 憲治:教授

灰田 信英:教授

宮地 恵美子:教授

鳥居 昭久:准教授(教務部長)

安田 和弘:准教授(3 年生担任)

大塚 幸永:講師(2 年生副担任)

大矢 暢久:講師(副学科長)

加藤 剛平:講師(2 年生担任)

五嶋 裕子:講師(1 年生担任)

佐藤 政広:講師(2022 年 4 月着任)

杉山 真理:講師

武井 圭一:講師(1 年生担任)

田中 直樹:講師(2 年生副担任)

富田 義人:講師

中村 泰規:講師

森本 晃司:講師(3 年生担任)

有菌 暢子:助教(3 年生副担任)

有本 邦洋:助教(2 年生担任)

重國 宏次:助教(3 年生副担任)

III. 理学療法学科活動

(写真は大学のホームページより引用)

1. 臨地実務実習について

2021 年度は、2022. 2. 14~18 に 1 年生見学実習を、2022. 3. 1~11 に 2 年生検査測定実習を学内にて実施した。検査測定実習においては理学療法学科教員オリジナルの学科実習用教材を作成した。2022 年度は学外での臨地実務実習に向けて準備中である。



写真: オリジナル教材 (PP 資料)

2. 2022年度の理学療法学科3期生入学生は、定員通り80名であった。2022年度前期授業からは、東京都が大学に要請している「新型コロナウイルス感染症の拡大防止と、授業の効果的实施等による学修機会の確保の両立」に準じて感染防止策を徹底したうえで、対面開催とした。また、2022年度より学修アドバイザー制を導入し、個別学修相談を実施している。

3. 2022年度前期、展開科目(選択必修)「障がい者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅱ」では、6月にナショナルトレーニングセンター(NTC)イーストを見学、8月には埼玉県障害者交流センターの見学と、パラアーチェリー銅メダリスト「平沢奈古 選手」のお話を聞く機会を得た。施設見学の第3弾として、横浜市障がい者スポーツ文化センター「ラポール上大岡」を見学し、施設の概要説明を受け、下肢障害者用の上肢運動測定器や、片麻痺体験スーツを着てのグラウンドゴルフなどを体験した。

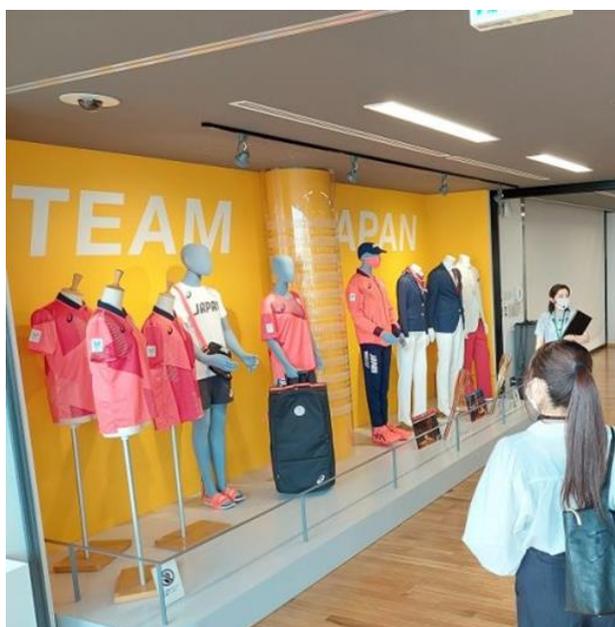


写真:ナショナルトレーニングセンター(NTC)



写真:パラリンピック銅メダリストの講話

4. 2022年8月運動器疾患(骨折や変形疾患など)の加齢に伴う筋肉量の減少について、理学療法学科の富田義人講師が調査した研究「サルコペニアと呼吸機能に関する研究論文」が、英文誌(電子ジャーナル)Medicineに報告された。

5. 2021年11月に江東区と締結した福祉事業(高齢者・障害者分野)に係る連携協定の一環で、2022年10月21日「辰巳小学校令和4年度学校保健委員会」において、本学副学部長の鳥居昭久先生が「成長期のスポーツ障害と予防」をテーマに講演を行った。講演終了後、特に保護者の方々からジュニア期のスポーツにまつわる障害や発育に関する具体的な質問が多数寄せられた。今後も様々な教育機関との連携を図りながら、地域社会の健康増進に貢献する。また、この連携協定に関連した事業として、当大学において学生ボランティアを募り認知症カフェを開催している。



写真：辰巳小学校講演の様子

6. 2022年度のオープンキャンパスは、理学・作業両学科の体験授業を1回の参加で受けることができ、楽しく興味を持てる内容となるよう工夫した。その後、本学の特色を活かした魅力あるオープンキャンパスについて検討部会を立ち上げた。

7. 2023年1月14日、第3回東京保健医療専門職大学学術大会は「パラスポーツを通して障がい者の社会参加を目指して」をテーマに、鳥居昭久副学部長を学術大会長として開催された。プログラムは、第1部は大会長講演「パラスポーツにおいて理学療法士・作業療法士ができること」鳥居昭久（東京保健医療専門職大学）。第2部は次の4名のシンポジストの発表後に大会長の進行でシンポジウムが行われた。シンポジスト1「東京都における理学療法士・作業療法士との協働の実際」高山浩久（東京都障害者総合スポーツセンター副所長・日本パラスポーツ協会技術委員会委員長）2「障害者にとってのパラリンピック」平沢奈古（アテネパラリンピック・アーチェリー競技銅メダリスト）3「パラスポーツにおける理学療法士の役割」杉山真理（東京保健医療専門職大学）

4「パラスポーツに関わっている作業療法士の調査とその実態」井川大樹（東京保健医療専門職大学）。第3部は、記念講演「障がい者が社会に参加するために必要なこと」菊地みほ（東京保健医療専門職大学）、以上の3部構成で、オンラインで開催された。

IV. 理学療法学科教員の活動（2022.1～12）

○五十嵐 広明：教授

【社会貢献活動】

1. 横浜市の「まちづくり」の公的委員：横浜市建築協定連絡協議会 幹事
2. 教育講演：五十嵐 広明「建築協定の概要と運営についての基本を知る」
第39回横浜市建築協定連絡協議会初心者研修会，2022年7月，横浜
3. 第39期横浜市建築協定連絡協議会秋の勉強会 主催，2022年12月，横浜
4. 大妻女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻非常勤講師（人体構造機能論、病理学）

○岩本 浩二：教授

【論文】

- 1) Makoto Takahashi, Koji Iwamoto, Kazuhide Tomita, Kazuyasu Isho, Hiroshi Mikami, Yuki Nakajima. Contribution of the Craig's test to hip internal rotation among baseball players. *Sport Sciences for Health*. 17 June 2022.
- 2) Makoto Takahashi, Koji Iwamoto, Kazuhide Tomita, Tomohiko Kamo, Shinji Ueda, Takeshi Igawa, Yukio Miyauchi. Associated Factor and Healing Process of Injury of the Lateral Malleolus of the Fibula in Lateral Ankle Sprain. *International Journal of Gerontology*. 16(3)277-280. June 2022.
- 3) Makoto Takahashi, Koji Iwamoto,

Kazuhide Tomita, Shinji Ueda, Takeshi Igawa, Yukio Miyauchi. Factors associated with spinal instability in low back lumbar diseases with leg pain: Analysis of sagittal translation and segmental angulation. Journal of Back and Musculoskeletal Rehabilitation. September 2022.

4) Makoto Takahashi, Koji Iwamoto, Kazuhide Tomita, Takeshi Igawa, Yukio Miyauchi. Incidence of cervical kyphosis and cervical posterior translation in neck pain associated with radiological evidence of degenerative disc disease.

Musculoskeletal Science and Practice. September 2022.

【学会発表】

1) 大野智貴, 岩本浩二, 門間正彦, 若林敏行、富田和秀. 母指屈曲肢位が前腕回内時の前腕骨間膜動態に及ぼす影響. 第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2022年11月(札幌)

2) 高橋真, 岩本浩二, 門間正彦, 水上昌文. 大学野球選手の投球側肩関節における上腕骨頭-肩甲骨関節窩後縁の骨間距離と外旋角度との関係. 第9回日本スポーツ理学療法学会学術集会. 2022年12月(東京)

【社会貢献活動】

・ザ・ランニングクリニック コース・セミナー主催

・日本臨床徒手医学協会セミナーマネジメント

・第6回日本循環器理学療法学会学術大会 運営副部長

・茨城県立医療大学保健医療学部 共同研究員

・茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科 共同研究員

・茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科 博士前期課程 理学療法学・作業療法学専

攻 学外指導教員

・茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科 博士後期課程 保健医療科学専攻 学外指導教員

○江幡 真史：教授

【学術報告】

①柳澤 孝主, 江幡 真史, 片岡 幸彦, 若原 圭子, 西澤達夫, 佐々木清子, 平野夏子, 有本邦洋, 五嶋裕子, 大塚幸永 「東京保健医療専門職大学における展開科目の可能性 -FD・SD研修における発展的試みを通して-」, 全国リハビリテーション学校協会主催第35回教育研究大会・教員研修会, 2022年10月

②森本晃司, 畠山久司, 大塚幸永, 小野寺哲夫, 武井圭一, 富田義人, 江幡真史, 鳥居昭久 「理学・作業療法養成課程を有する専門職大学の魅力度・認知度調査-入学時アンケートによる実態調査-」: 「理学・作業療法養成過程を有する専門職大学の魅力度・認知度の調査-入学時学生アンケートによる実態調査-」, 全国リハビリテーション学校協会主催第35回教育研究大会・教員研修会, 2022年10月

③小野寺哲夫, 畠山久司, 大塚幸永, 武井圭一, 森本晃司, 江幡真史 「医療系専門職大学の教育的特徴の何がOT/PTを目指す学生の成長に影響を与えるのか」, 第19回職業教育研究集会, 2022年10月

【社会貢献活動】

公益社団法人 経済同友会 幹事

公益社団法人 経済同友会 産業懇談会代表世話人

公益社団法人 経済同友会 財務委員会副委員長

第8期練馬区介護保険運営協議会委員

○清宮 清美：教授

【学会発表】

1) 清宮清美, 窪田浩平. 頸髄損傷者の手指切

断後の義手作製事例. 第 11 回日本支援工理学療法学会学術大会 2022 年 12 月

【学術活動】

- ・日本支援工理学療法学会 第 1 回福祉用具・住宅改修フォーラム 大会長 2022 年 10 月
- ・第 17 回日本シーティング・シンポジウム 教育講演 司会
- ・第 11 回日本支援工理学療法学会学術大会教育講演 司会 2022 年 12 月

【社会貢献活動】

- ・公益社団法人日本理学療法士協会 常務理事
障がい児（発達障がい児）対策事業部会担当
障がい者スポーツ普及促進事業部会担当
令和 6 年度報酬改定対策強化推進部会 構成員
新組織体制にかかる検討会 構成員
- ・公益社団法人日本理学療法士協会関東甲信越ブロック協議会 相談役
- ・公益社団法人埼玉県理学療法士会 監事
- ・一般社団法人日本支援工理学療法学会 評議員
- ・一般財団法人日本障害者リハビリテーション協会 理事
- ・特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会 監事
- ・国立リハビリテーションセンター学院 学校関係者評価委員会 委員
- ・一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 福祉機器コンテストオブザーバー

○佐久間 肇：教授

【著書】

- 1) 佐久間 肇. 障害別にみた特徴と雇用上の注意:内部障害, 令和 4 年度 障害者職業生活指導員資格認定講習テキスト, 2022 年 6 月. (独)高齡・障害・求職者雇用支援機構
- 2) 佐久間 肇. 障害別にみた特徴と雇用上の

注意:内部障害, 2022 年版 (公務部門向け)障害者職業生活指導員資格認定講習テキスト, 2022 年 6 月, 厚生労働省

【社会貢献活動】

- 1) 東京都 「スポーツの効用等に関するコンテンツ発信事業」ビデオ監修
- 2) (公) 日本アンチドーピング機構 TUE 審査委員
- 3) (公) 日本パラスポーツ協会・医学委員会委員
- 4) (公) 日本パラスポーツ協会・障がい者スポーツ医養成講習会講師(2022. 2. 1、オンライン)
- 5) (公) 日本パラスポーツ協会・障がい者スポーツトレーナー養成講習会講師(2022. 8. 12、横浜市)
- 6) (公) 日本パラスポーツ協会・中級障がい者スポーツ指導員講習会講師 (2022. 11. 19、長野)
- 7) 東京都多摩障害者スポーツセンター医事相談 (3 回/年)

○田畑 稔：教授

【共同研究・競争的資金等の研究課題】

- ・左心室収縮機能が維持される慢性心不全患者における心不全再入院を予防する方法の確立. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) . 2019 年 4 月より継続中

【論文】

- 1) 田畑 稔. 心血管疾患に対する理学療法 東京保健医療専門職大学紀要 第 2 巻, 第 1 号 : 11-18, 2022 年 3 月

【著書】

- 1) 田畑 稔, 細田 多穂. 内部障害理学療法学テキスト 改訂第 4 版 . (担当:分担執筆, 範囲: 第 7 章 心筋梗塞急性期の理学療法), 南江堂. Pp65-79. 2022 年 12 月 (ISBN: 9784524231171).

【学会活動】

- ・第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学

術集会座長. 2022年6月12日

・田畑 稔. 第6回日本循環器理学療法学会学術大会会長講演「心血管疾患の重症化予防に資する心管理理学療法 -健康寿命の延伸を図るための方策の構築-」. 第6回日本循環器理学療法学会学術大会 2022年09月03日

・第6回日本循環器理学療法学会学術大会会長賞審査員. 2022年09月03日

・第6回日本循環器理学療法学会学術大会三学会合同シンポジウム座長. 2022年09月03日

・日本心臓リハビリテーション学会第7回関東甲信越支部地方会 優秀演題審査委員. 2022年10月8日

・第11回日本理学療法教育学会学術大会演題査読委員. 2022年11月5日

・第9回日本予防理学療法学会学術大会座長. 2022年11月19日

【学会役員】

・日本心不全学会 代議員
・日本循環器学会 心不全療養指導士実務部会 委員

・日本心臓リハビリテーション学会 評議員
・日本心臓リハビリテーション学会 編集委員会 編集委員

・日本循環器理学療法学会 理事
・日本予防理学療法学会 評議員

・日本理学療法学会連合 編集委員会 査読委員

・日本循環器理学療法学会 第6回学術大会長

・日本循環器理学療法学会 規約検討・利益相反委員会 委員長

・日本予防理学療法学会 機関誌編集委員会 編集委員

・日本循環器理学療法学会 機関誌編集委員会 副委員長

・東京都理学療法士協会 地域活性局 区東北

部・区東部ブロック部 世話人

・学校法人 敬心学園 研究審査・評価専門委員会 研究審査・評価専門委員

・東京保健医療専門職大学 教育過程連携議会 委員

【社会貢献活動】

・東京都理学療法士協会 臨床実習指導者講習会 世話人

・江東区(深川、亀戸、城東)ふれあいセンターにおける【頭と体の健康度チェック 2022】へ参加

○照井 直人：教授

【著書】

翻訳 ギャノン生理学 原著 26版 32. 循環の調節機序 33. 特殊部位の循環 岡田泰伸監修 丸善出版 2022. 2. 25 pp681-718.

○西澤達夫：教授

【学術報告】

1) 西澤達夫：業務用ソフトウェアの重度心身障害者向けユーザインタフェースの検討、『東京保健医療専門職大学紀要』第2巻第1号, 令和4年3月31日, pp46-51

【社会貢献活動】

・公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会参与

○灰田 信英：教授

【論文】

1) 灰田信英、灰田悠：歯科・口腔外科とリハビリテーション医療の連携、アビリティ・サポート研究所報告集、1-4、2022

2) 灰田信英：武蔵野市の健康づくり推進への理学療法士の役割と取り組み、アビリティ・サポート研究所報告集、5-8、2022

○宮地 恵美子：教授

【発表】

1) 小林光俊、宮地恵美子、宮田雅之、日本の高等教育機関における専門職業人材教育の現状 -専門職大学制度化への道のりとその意義-、敬心学園グループホームページ、2022年1月7日

2) 小林光俊、宮地恵美子、宮田雅之、日本の高等教育機関における専門職業人材教育の現状 -日本の高等教育機関に対する問題提起-、敬心学園グループホームページ、2022年1月12日

【社会貢献活動】

- ・専門職大学コンソーシアム 事務局
- ・一般財団法人 吉岡文化教育協会 理事

○鳥居 昭久：准教授

【論文】

- 1) 鳥居昭久：パラリンピック東京大会の日本選手団本部トレーナー活動と今後の障がい者スポーツトレーナーの課題. 日本パラスポーツ学会誌第1号. 2022
- 2) 鳥居昭久：日本障がい者スポーツトレーナー学会の役割. 日本パラスポーツ学会誌第1号. 2022

【学会発表】

- 1) 森本晃司, 畠山久司, 大塚幸永, 小野寺哲夫, 武井圭一, 富田義人, 江幡真史, 鳥居昭久：理学療法・作業療法養成課程を有する専門職大学の魅力度・認知度の調査—入学時学生アンケートによる実態調査, 全国リハ学校協会教育研究大会 (web開催、10月)

【学会・研修会講師など】

- 1) 神奈川県理学療法士会スポーツ理学療法研修会講師「東京2020パラリンピック日本選手団本部における活動」(2月)
- 2) 愛知県理学療法学会集會教育セミナー講師「パラスポーツ分野で理学療法士が活躍する時代へ」(4月)
- 3) 栃木県理学療法士会研修会「障がい者スポーツ概論」(6月)

4) 日本パラスポーツ協会中級障がい者スポーツ指導員養成講習会講師「身体のしくみとトレーニング」「障害各論(肢体不自由)」(札幌10月、東京10月、長野11月)

5) 障がい者スポーツ指導者協議会全国研修会「ケガの予防のためのストレッチングの基礎」(福井、12月)

6) 愛知県アスレティックトレーナー連絡協議会第13回研修会座長(12月)

【社会活動など】

- 1) 日本障がい者スポーツ協会トレーナー部会委員(通年)
- 2) 日本理学療法士協会障がい者スポーツ普及促進運営部会部長(通年)
- 3) 日本理学療法士協会スポーツ理学療法の全国展開推進運営部会部員(通年)
- 4) 愛知県アスレティックトレーナー連絡協議会理事(通年)
- 5) 名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会トレーナー部会委員(通年)
- 6) 愛知県2026年アジア競技大会等選手強化事業アスリート強化専門委員会委員(通年)
- 7) 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター事業コンディショニング領域委嘱トレーナー(通年)
- 8) 愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科非常勤講師(健康科学, リハビリテーション倫理, 理学療法特論スポーツ理学療法) 2021年4月~12月
- 9) 名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻非常勤講師「スポーツ理学療法・パラスポーツ概論」(7月)
- 10) 北里大学保健衛生学部理学療法学専攻非常勤講師「整形外科系理学療法学実習・パラスポーツ入門」(12月)
- 11) 日本パラリンピック委員会ジャパンライジングスタープログラム体力測定会スタッフ(名古屋2月、東京10月)
- 12) ナゴヤウイメンズホイールチェアマラソン本

- 部トレーナーブーススタッフ (3月)
- 13) 東京都障害者総合スポーツセンター事業「障がい者スポーツトレーナーによるサポート」(5月、8月、11月)「アスリート育成」(8月、)
- 14) 名古屋市障がい者スポーツ大会運営スタッフ (5月)
- 15) 東京都障がい者スポーツ大会運営スタッフ (5月)
- 16) 名古屋市障がい者スポーツセンター体力測定会スタッフ (6月)
- 17) 出前講義「リハビリテーションとは?PT・OTの仕事」「成長期のケガの予防」など: 正則高校(6月)、武相高校(6月)、杉並高校(7月)、つくば秀英高校(7月)、辰巳小学校(8月、10月)、第4大島小学校(9月)、清洲東小学校(9月)、錦城高校(9月)、六郷小学校(10月)、東砂小学校(10月)、名古屋学院大学(11月)、北豊島高校(11月)、楠小学校(12月)

○安田 和弘

【論文 (欧文)】

- 1) Jing-Chen Hong, Jiahui Gao, Kazuhiro Yasuda, Hiroki Ohashi, and Hiroyasu Iwata. A Pneumatic Artificial Muscle and Spring Combination System that Assists Ankle Rocker and Transforms Energy into Push-Off Support: A Feasibility Study in Healthy Participants. Proceeding of 2022 IEEE 17th International Conference on Rehabilitation Robotics (ICORR), P-087
- 2) Kentarou Kodama(†), Kazuhiro Yasuda(†), Tomoki Akatsuka, Nikita S Kuznetsov, Hiroyasu Iwata. The influence of a vibrotactile biofeedback system on postural dynamics during single-leg standing in healthy older adults. Neurosci

Lett. 2022 Aug 24;786:136807

(†)double first author

- 3) Tomoki Akatsuka(†), Kazuhiro Yasuda(†), Rikushi Sabu, Shuntarou Kawaguchi, Hiroyasu Iwata. A Proposal for a New Index to Quantify the Ratio of Near and Far Spatial Neglect Using Immersive Virtual Reality Technology: A Technical Report. Proceeding of IEEE/EMBS 44th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC), paper no. 349, Jul. 2022 (†)double first author
- 4) Saki Takazawa(†), Kazuhiro Yasuda(†), Rikushi Sabu, Shuntaro Kawaguchi, Hiroyasu Iwata. Quantification of Unilateral Spatial Neglect Symptoms Based on Identification of Exploratory Ability. Proceeding of 2022 IEEE 17th International Conference on Rehabilitation Robotics (ICORR), P-193, Jul. 2022 (†)double first author
- 5) Saki Takazawa, Kazuhiro Yasuda, Rikushi Sabu, Shuntaro Kawaguchi, and Hiroyasu Iwata. Development of Mixed Reality Rehabilitation System for Real Life Environment Training in Stroke Patients with Unilateral Spatial Neglect. Proceeding of IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics 2022 (SMC2022), We-PS3-T9.2
- 6) Kentarou Kodama, Kazuhiro Yasuda, Hideo Yamagiwa. Impact of Joint Fixation on Postural Dynamics during Single-Leg Stance. J Mot Behav. 2022 Nov 14:1-7.

【論文 (和文)】

- 1) 洪境晨, 高佳輝, 安田和弘, 大橋洋輝, 岩田浩康. 人工筋肉と引張ばねの組み合わせ

せによるアングルロッカーと蹴り出しの同時支援 ープロタイプ開発と健常者を対象とした概念実証試験” . 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演論文集, paper no. 2A1-A07

2) 高澤彩紀, 安田和弘, 佐武陸史, 川口俊太郎, 岩田浩康. 没入型 VR を用いた 3 次元無視評価に基づく半側空間無視患者の近位・遠位空間無視比率の定量化指標の提案. 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演論文集, paper no. 2A1-A06.

3) 鳥谷周太郎, 小川拓真, 西村喜一, 楊馨逸, 安田和弘, 岩田浩康. 仰臥位疑似歩行リハビリロボットを用いたマルチモーダル FB による随意性促進訓練システムの提案. 第 37 回ライフサポート学会講演論文集, paper no. 1P1-A3

4) 高澤彩紀, 安田和弘, 川口俊太郎, 岩田浩康. MR を用いた日常生活における半側空間無視症状改善システムの構築. 第 37 回ライフサポート学会講演論文集, paper no. 1P1-A3

5) ラウ シュン ケット デイビッド, 洪境晨, 大橋洋輝, 安田和弘, 岩田浩康. 足底圧の視覚的 BF により非明示的に歩行速度の減衰を防止する手法の構築. 第 37 回ライフサポート学会講演論文集, paper no. 3A1-F5

6) 洪境晨, 安田和弘, 大橋洋輝, 岩田浩康. 脳卒中患者個人に応じた蹴り出しトルクの推定と適切なばね定数の同定手法. 第 37 回ライフサポート学会講演論文集, paper no. 1P1-A2

7) 鳥谷周太郎, 小川拓真, 西村喜一, 楊馨逸, 安田和弘, 岩田浩康. リンク機構を用いて健常者の歩行軌道を再現した仰臥位疑似歩行ロボットの開発. 第 40 回 日本ロボット学会学術大会講演論文集, paper no. 2H1-05

【学会・研修会講師など】

1) 日本生活支援工学会・日本機会学会・ライフサポート学会 合同学会 企画セッション座長. ニューロリハビリテーションと工学. 2022 年 8 月 (web 開催)

2) 日本支援工学理学療法学会 シンポジスト. 先端技術を活かした理学療法を考えるフォーラム. 2022 年 9 月 (web 開催)

3) 日本神経理学療法学会 シンポジスト. 共催シンポジウムⅡ病態に基づく新たなテクノロジーによる理学療法の新展開. 2022 年 10 月 (大阪府)

4) リハテックリンクス株式会社ウェブセミナー 講師. 多感覚相互作用と高齢者の立位姿勢制御. 2022 年 12 月 (web 開催)

5) リハテックリンクス株式会社ウェブセミナー 講師. VR 技術を用いた半側空間無視への理学療法展開. 2022 年 12 月 (web 開催)

6) 東京都立大学 (プレミアムカレッジ) 講師. 多感覚相互作用と高齢者の立位姿勢制御. 2023 年 1 月 (東京都)

【社会貢献活動】

・厚生労働省 「令和 4 年度老人保健健康増進等事業」ワーキンググループ委員

・厚生労働省 「自立支援機器イノベーション人材育成事業評価委員会」委員

・厚生労働省 「障害者自立支援機器等開発評価委員会」委員

・日本支援工学理学療法学会 評議員

・NPO 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会 世話人

○大塚 幸永:講師

【学会発表】

1) 森本晃司, 畠山久司, 大塚幸永, 小野寺哲夫, 武井圭一, 富田義人, 江幡真史, 鳥居昭久 「理学療法・作業療法養成課程を有する専門職大学の魅力度・認知度の調査-入学時学生アンケートによる実態調査-」全国リハビリテーション学校協会 第 35 回教育研究大会・教員研

修会, 2022 年 10 月

2) 柳澤孝主、江幡真史、片岡幸彦、若原圭子、西澤達夫、佐々木清子、平野夏子、有本邦洋、五嶋裕子、大塚幸永「東京保健医療専門職大学における展開科目の可能性 - FD・SD 研修会における発展的試みを通して -」全国リハビリテーション学校協会 第 35 回教育研究大会・教員研修会, 2022 年 10 月

【地域・社会貢献活動】

・臨床実習指導者講習会 世話人
東京保健医療専門職大学 世話人 2022 年 6 月
東京保健医療専門職大学 世話人 2022 年 10 月
日本リハビリテーション専門学校 世話人 2022 年 12 月

○大矢 暢久：講師

【論文】

1) 富田 義人, 加藤 剛平, 重國 宏次, 有本 邦洋, 秋元 美穂, 大矢 暢久, 五嶋裕子, 佐藤 淳矢, 武井 圭一, 畠山 久司: コロナ禍の医療系大学生における自宅付近での運動を運動習慣との関連. 日本生理人類学会誌 第 27 号; 2022 年 5 月.

2) Nobuhisa Ohya, Takumi Yamada: Evaluation of the tissue thickness of supraspinatus and biceps long head tendons using ultrasound among elderly patients with unilateral adhesive capsulitis in the freezing phase. Journal of Physical Therapy Science 2022;vol134 No6:426-432.

【社会貢献活動】

・日本物理療法学会 査読委員

○加藤 剛平：講師

【著書】

1) 牧田光代(監修), 金谷さとみ, 原田和宏(編集), 加藤剛平, 他. 地域理学療法第 5 版. 医学書院. pp218-223. 2022 年 11 月.

【論文】

1) 富田義人, 加藤剛平, 重國宏次, 有本邦洋, 秋元美穂, 大矢暢久 畠山久司: コロナ禍の医療系大学生における自宅付近での運動と運動習慣との関連. 日本生理人類学会誌 . 2022;27(2):23-26.

2) Kato G, Doi T, Arai H, Shimada H: Cost-effectiveness Analysis of Combined Physical and Cognitive Exercises Programs Designed for Preventing Dementia among Community-dwelling Healthy Young-old Adults. Physical Therapy Research. 2022; 25(2):56-67.

【学会】

1) 加藤剛平: 転倒予防プログラムの費用対効果と社会実装に向けた課題. 日本転倒予防学会第 9 回学術集会. 2022 年 10 月 16 日.

2) 第 5 回日本産業理学療法研究会学術大会一般演題セッション 座長

【社会貢献活動】

1) 日本産業理学療法研究会 評議員
2) Medicine® 学術編集委員

○五嶋 裕子：講師

【短報】

・ 富田 義人・加藤 剛平・重國 宏次・有本 邦洋・秋元 美穂・大矢 暢久・五嶋 裕子・佐藤 淳矢・武井 圭一・畠山 久司, コロナ禍の医療系大学生における自宅付近での運動と運動習慣との関連, 日本生理人類学会誌 2022 年 27 卷 2 号 p. 23-26

【報告】

・ 五嶋 裕子・加藤 剛平・積田 修真, ICT 活用に向けた新入生に対する PC 教室の取り組み, 東京保健医療専門職大学紀要 2022 年第 2 卷 第 1 号 p. 52-56

【学会発表】

- ・ 柳澤孝主・江幡真史・片岡幸彦・若原圭子・西澤達夫・佐々木清子・平野夏子・有本邦洋・五嶋裕子・大塚幸永，東京保健医療専門職大学における展開科目の可能性，全国リハビリテーション学校協会 第 35 回教育研究大会・教員研修会，2022 年 10 月
- ・ 富田 義人・加藤 剛平・重國 宏次・有本 邦洋・五嶋 裕子・森本 晃司，新型コロナウイルス蔓延下における大学生の主観的運動量増加と精神的健康度との関連から、学生への助言の在り方を考える，第 19 回 敬心学園職業教育研究集会，2022 年 11 月

【社会貢献活動】

- ・ 臨床実習指導者講習会 講師・世話人
杏林大学 世話人 2022 年 2 月
社会医学技術学院 世話人 2022 年 3 月
東京国際大学 世話人 2022 年 3 月
東京保健医療専門職大学 講師 2022 年 5 月
杏林大学 世話人 2022 年 7 月
首都医校 講師・世話人 2022 年 8 月
東京保健医療専門職大学 講師 2022 年 9 月
東京都立大学 講師 2022 年 11 月
順天堂大学 世話人 2022 年 12 月
- ・ 湘南医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 統計学 非常勤講師
- ・ 国立障害者リハビリテーション学院 リハビリテーション体育学科 整形外科学・老年学 非常勤講師
- ・ リハビリテーションリサーチメソッド研究会 理事
- ・ 東京都理学療法士協会 臨床実習指導者講習会協議会委員
- ・ 江東区連携事業 認知症カフェ事業 ワーキンググループ

○佐藤 政広：講師

【社会貢献活動】

- ・板橋区発達障がい者支援センター（あいポート）：パーソナルトレーナー
青年・成人の発達障がいと診断又は周辺疾患と診断された人たちに対する個別の身体運動パーソナルトレーニングの実施.
- ・多機能型事業所「うさぎのみみ」：機能訓練指導員
医療的ケア児を対象とした児童発達支援、及び 18 歳以上の重症心身障害者の生活介護の現場で、発達支援・機能維持訓練の実施.

○杉山 真理：講師

【学会発表】

- ・第 2 回介護ロボットの開発と普及を考えるフォーラム 準備委員長、座長 2022. 2. 11
 - ・Mari Sugiyama, Yoromitsu Furukawa, Nami Shida, Takashi Handa. Powered Wheelchair Seating to Facilitate the Enjoyment of University Life. 7th European Seating Symposium, Ireland. 2022. 6
 - ・オリ・パラでの理学療法士の関わり 第 41 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 教育講演 講師 2022. 9
 - ・東京都障害者スポーツ協会 令和 4 年度スポーツボランティア講習会 講師 2022. 9
 - ・一般社団法人日本支援工学理学療法学会 第 1 回福祉用具・住宅改修フォーラム 準備委員長、座長 2022. 10
 - ・座位のポジショニング～安全で活動的な移動を支援する用具活用のポイント～ 第 11 回日本支援工学理学療法学会学術大会 シンポジスト 2022. 12
- ### 【社会貢献活動】
- ・一般社団法人日本支援工学理学療法学会 理事
 - ・公益社団法人日本理学療法士協会 障がい

者スポーツ普及促進部会 部会員

・日本障がい者スポーツトレーナー学会 事務局長

・日本パラスポーツ協会 技術委員会 委員

・埼玉県産業技術総合センター 客員研究員

・令和3年度「障がい者スポーツ次世代ホープ発掘事業」専門相談員

・一般社団法人日本パラ陸上競技連盟 クラス分け委員会 委員

・2022年度JSTARプロジェクト 委員

・東京都立大学 ティーチングアシスタント

・江東区 福祉部介護保険課在宅支援係 地域リハビリテーション相談員

○武井 圭一：講師

【論文】

・Takei K, Morita S, Watanabe, Suganami M, Inao M. Safety, feasibility, and acceptability of physiotherapy combined with strength training using active video games for older patients with musculoskeletal conditions. Disabil Rehabil Assist Technol. 2022 Aug 24:1-7.

【学会発表】

・寺下美麗, 武井圭一, 森田新平, 稲生実枝. 「回復期高齢患者に対する AVG を用いた運動を併用した理学療法の可能性-シングルケーススタディー」, 第30回埼玉県理学療法学会, 2022年1月23日, Web開催.

・森本晃司, 畠山久司, 大塚幸永, 小野寺哲夫, 武井圭一, 富田義人, 江幡真史, 鳥居昭久. 「理学・作業療法養成課程を有する専門職大学の魅力度・認知度の調査-入学時学生アンケートによる実態調査-」, 第35回教育研究大会・教員研修会, 2022年10月29-30日, Web開催.

・小野寺哲夫, 畠山久司, 大塚幸永, 武井圭一, 森本晃司. 「医療系専門職大学の教育的特徴の何が OT/PT を目指す学生の成長に影響を与えるのか」, 第19回職業教育研究集会, 2022年

10月22日

【学会・研修会講師など】

・第1回先端技術を活かした効果的な理学療法を考えるフォーラム(ミニレクチャー)講師. 理学療法に応用する Active Video Game を再考する. 2022年9月(Web開催)

・第20回日本神経理学療法学会学術大会(口述セッション)座長. 2022年10月(大阪府)

【社会貢献活動】

・東京都理学療法士協会 卒前教育検討委員会委員

・国立障害者リハビリテーションセンター学院リハビリテーション体育学科 非常勤講師(整形外科学、老年医学)

・第1回福祉用具・住宅改修フォーラム準備委員

○田中 直樹：講師

【論文】

1) Kazuaki Ebihara, Naoki Tanaka, Takashi Isaji, Masashi Yamazaki. Effects of gait training with a footpad-type robotic locomotion interface on individual and muscle group activities in healthy adults: comparison with treadmill. The Journal of Rehabilitation Sport, 40 (2), 44-55, 2022
2) Naoki Tanaka, Kazuaki Ebihara, Yasuhiko Ebata, Hiroaki Yano. Effect of gait rehabilitation with a footpad-type locomotion interface on gait ability in subacute stroke patients. NeuroRehabilitation, 50 (4), 401-407, 2022

【社会貢献活動】

・アール医療福祉専門学校理学療法学科非常勤講師(物理療法学)

○富田 義人：講師

【論文】

富田 義人, 有本 邦洋, 秋元 美穂, 大矢 暢久, 加藤 剛平, 五嶋 裕子, 佐藤 淳也, 重國 宏次,

武井 圭一, 畠山 久司. 2022. 『コロナ禍の医療系大学生における自宅付近での運動と運動習慣との関連』, 日本生理人類学会誌, 27: 23-26.

• Xiao, Xu, Satoshi Mizukami, Kazuhiko Arima, Kyoya Morikawa, Midori Motoi, Naoki Iwamoto, Yoshihito Tomita et al. 2022. 『Association of FTO genotype with obesity and bone health among community-dwelling adults ; Goto Island study on bone health』, Acta Medica Nagasakiensia, 65: 77-87.

• Tomita, Y., S. Mizukami, T. Nishimura, K. Arima, Y. Abe, M. Kanagae, and K. Aoyagi. 2022. 『Association between sarcopenia and respiratory function in elderly orthopedic outpatients』, Medicine (Baltimore), 101: e29365.

• Mizukami, Satoshi, Kazuhiko Arima, Yasuyo Abe, Yoshihito Tomita, Hiroki Nakashima, Yuzo Honda et al. 2022. 『Association between fat mass by bioelectrical impedance analysis and bone mass by quantitative ultrasound in relation to grip strength and serum 25-hydroxyvitamin D in postmenopausal Japanese women: the Unzen study』, Journal of Physiological Anthropology, 41: 7-7.

• Maeta, Shunsuke, Satoshi Mizukami, Yoshihito Tomita, Yutaka Date, Kazuhiko Arima, and Kiyoshi Aoyagi. 2022. 『The effectiveness of Modified Early Warning Score (MEWS) using individual-specific range in predicting pneumonia hospitalization among nursing home residents in Japan: Comparison with National Early Warning Score (NEWS)』, Acta

Medica Nagasakiensia, 65: 89-94.

• Kit, Ayano, Kazuhiko Arima, Yasuyo Abe, Satoshi Mizukami, Yoshihito Tomita et al. 2022. 『Association between Mothers' Attachment Styles and Parenting Stress among Japanese Mothers with Toddlers』, Psychiatry International, 3: 122-30.

【学会発表】

• 大川内 鉄二、有馬 和彦、水上 諭、古藤 世梨奈、キット 彩乃、赤星 衣美、後藤尚、富田 義人、西村 貴孝、金ヶ江 光生、玉井 慎美、安部 恵代、青柳 潔 : 地域在住住民のメンタルヘルスと骨量低下の関連 (長崎 アイランドスタディ) . 第 81 回日本公衆衛生学会総会、20221007 ~ 20221009、山梨、選考・有、一般講演

• 水上 諭、有馬 和彦、金ヶ江 光生、後藤 尚、キット 彩乃、大川内 鉄二、古藤 世梨奈、富田 義人、西村 貴孝、赤星 衣美、安部 恵代、青柳 潔 : 離島在住女性における骨量と体組成との関連 . 第 81 回日本公衆衛生学会総会、20221007 ~ 20221009、山梨、選考・有、一般講演

• Arima Kazuhiko、Mizukami Satoshi、Ookawachi Tetsuji、Koto Serina、Kit Ayano、Tomita Yoshihito、Nishimura Takayuki et al . : SNP of ALDH2 and drinking were associated with low bone mass in Japanese men. . 第 81 回日本公衆衛生学会総会、20221007 ~ 20221009、山梨、選考・有、一般講演

• 森本晃司、畠山久司、大塚幸永、小野寺哲夫、武井圭一、富田義人、江幡真史、鳥居昭久 : 理学療法・作業療法養成課程を有する専門職大学の魅力度・認知度の調査ー入学時学生アンケートによる実態調査ー . 第 35 回教育研究大会・教員研修会、20221029 ~ 20221030、Web 開催、選考・有、一般講演

・ 富田義人、加藤剛平、重國宏次、有本邦洋、五嶋裕子、森本晃司：新型コロナウイルス蔓延下における大学生の主観的運動量増加と精神的健康度との関連から、学生への助言の在り方を考える．第 19 回 敬心学園職業教育研究集会、20221022、Web 開催、選考・有、一般講演

【社会貢献活動】

・ 日本生理人類学会 代議員
・ Journal of Physiological Anthropology Editorial Bord

○森本 晃司：講師

【学会発表】

1) 森本晃司、畠山久司、大塚幸永、小野寺哲夫、武井圭一、富田義人、江幡真史、鳥居昭久：理学療法・作業療法養成課程を有する専門職大学の魅力度・認知度の調査—入学時学生アンケートによる実態調査—．第 35 回教育研究大会・教員研修会 2022 年 12 月 18 日

2) 小野寺 哲夫、畠山 久司、大塚 幸永、武井圭一、森本 晃司：医療系専門職大学の教育的特徴の何が OT/PT を目指す学生の成長に影響を与えるのか—東京保健医療専門職大学(TPU)の第 1 期生と 2 期生に対するアンケート調査による検討—．敬心学園 第 19 回職業教育研究集会 2022 年 10 月 22 日

3) 富田義人、加藤剛平、重國宏次、有本邦洋、五嶋裕子、森本晃司：新型コロナウイルス蔓延下における大学生の主観的運動量増加と精神的健康度との関連から、学生への助言の在り方を考える．敬心学園 第 19 回職業教育研究集会 2022 年 10 月 22 日

【社会貢献活動】

・ 日本障がい者スポーツトレーナー学会 事務局
・ 流通経済大学ラグビー部 メディカルアドバイザー
・ 流通経済大学非常勤講師

・ 東京農大二高ラグビー部 メディカルアドバイザー

・ 第 9 回日本スポーツ理学療法学会学術大会 査読

○有菌暢子：助教

【社会貢献活動】

・ 特定非営利活動法人中野区聴覚障害者情報活動センター実務

・ 特定非営利活動法人かるがもの会(聴覚障害者ヘルパーの会) 監事

・ 中野区手話通訳者養成講習会 講師

・ 区役所手話部 指導

・ 手話通訳活動 200 件

・ 社会福祉法人聴力障害者情報文化センター「精神障害を併せもつ聴覚障害者への対応」

DVD 手話通訳

○有本 邦洋：助教

【論文】

1) 富田義人、加藤剛平、重國宏次、有本邦洋、秋元美穂、大矢暢久、五嶋裕子、佐藤淳矢、武井圭一、畠山久司、コロナ禍の医療系大学生における自宅付近での運動と運動習慣との関連、日本生理人類学会誌 2022 ;27 (2) : 23 - 26.

2) 有本邦洋、フェルデンクライスメソッドに関する文献調査—日本と海外における捉え方の違い—．日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌 2022 ; 20 (1) : 74 - 83.

【社会貢献活動】

・ 学校法人敬心学園 評議員

・ 学校法人敬心学園 敬心・研究ジャーナル編集委員

・ 国立障害者リハビリテーションセンター学院リハビリテーション体育学科 非常勤講師(神経筋機能障害、高齢者)

○重國 宏次：助教

【論文】

- 1) 有本 邦洋, 重國 宏次, 阿部 靖, 起業した理学療法士への聞き取り調査 起業経緯からの考察. 日本ユーマンケア・ネットワーク学会誌, 第 19 巻, 第 1 号, 56-57, 2021 年 12 月.
- 2) 富田 義人, 加藤 剛平, 重國 宏次, 有本 邦洋, 秋元 美穂, 大矢 暢久, 五嶋 裕子, 佐藤 淳矢, 武井 圭一, 畠山 久司. コロナ禍の医療系大学生における自宅付近での運動と運動習慣との関連. 日本生理人類学会, 第 27 巻, 第 2 号, 23-26, 2022 年 5 月.

【社会貢献活動】

- ・江東区介護予防給付費等の支給に関する審査会 委員
- ・国立障害者リハビリテーションセンター学院リハビリテーション体育学科 非常勤講師 (老年医学)

V. 2022 年度学科会議

2022 年は月 1 回原則第 3 月曜日開催として、事前にサイボウズ掲示板にて情報共有をすることとした。資料管理と書記は大矢副学科長が務め、議事録はサイボウズに掲載している。

1. 第 1 回理学療法学科会議 (2022. 4. 25)
2. 第 2 回理学療法学科会議 (2022. 5. 23)
3. 第 3 回理学療法学科会議 (2022. 6. 27)
4. 第 4 回理学療法学科会議 (2022. 7. 25)
5. 第 5 回理学療法学科会議 (2022. 8. 22)
6. 第 6 回理学療法学科会議 (2022. 9. 26)
7. 第 7 回理学療法学科会議 (2022. 10. 24)
8. 第 8 回理学療法学科会議 (2022. 11. 23)
9. 第 9 回理学療法学科会議 (2023. 1. 23)

VI. 理学療法学科のポリシー

【アドミッション・ポリシー ~学生受入れの方針~】

- 1) 理学療法士として、身体に障害があり社会的な諸問題に直面している人々を援助する意

欲のある人

- 2) 理学療法士として、多様な人々の価値観を認め受入れながら、主体的に考え、実践する意欲のある人
- 3) 共生社会の実現を意識し、理学療法の専門職として多面的な視点で諸問題を解決する意欲のある人
- 4) 理学療法士として、多様な人々とコミュニケーションを図り、協調性を持って行動する意欲のある人
- 5) 理学療法を学ぶための基礎的な学力を有している人

【ディプロマ・ポリシー ~卒業認定・学位授与の方針~】

■ 保健医療分野の専門性

理学療法に関わる専門的な知識や技術を修得し、様々な疾患や障害により理学療法を必要とする対象者に対し、適切で専門的な理学療法を行い、社会適応するための支援ができる。

■ 共生社会の理解

理学療法の専門職としての役割に加え、共生社会の理念を実践する理学療法士としての自覚を持ち、組織や地域社会に貢献することができる。

■ 課題解決力

身体運動に関する医療専門職である理学療法士として、対象者の立場や背景、ニーズ等を把握した上で、適切に病態や障害を評価し、運動機能の回復・維持等に対する課題解決に取り組むことができる。

■ 応用力

理学療法の専門性である身体運動分野等に隣接する他分野へ視野を広げ、対象者の QOL 維持・向上や健康寿命の延伸に向けた理学療法の応用・展開に取り組むことができる。

■ 組織における経営・マネジメント力

保健医療経営や理学療法に取り組む組織・人材マネジメント等に関する基礎知識を身につ

け、保健医療経営やマネジメント等の課題に幅広く対応できる。

【カリキュラム・ポリシー～教育課程編成・実施の方針～】

■ 基礎科目

理学療法士として活躍するための知識や教養を涵養する科目を配置する。共生社会、QOLの維持・向上についての基本を学ぶ。その上で、理学療法を学ぶための基礎的な能力を高める科目、社会人・職業人としての基本的な能力を養う科目を配置する。

■ 職業専門科目

高度化かつ多様化する保健医療分野において、基本的な医学的知識を身につけた上に、理学療法に関する専門性を多面的な観点から学ぶ。加えて、より質の高い理学療法を提供するため、保健医療に関する制度の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うと共に、科学的な根拠に基づき、より安全かつ効果的な理学療法を提供できる能力を育成するための理学療法専門科目を体系的に配置する。

■ 展開科目

理学療法の専門的な知識や技術に加え、展開力を有した理学療法の実務リーダーとして活躍するために、「理学療法に隣接する他分野(隣接他分野)」「組織の経営・マネジメント(経営分野)」及び「統合分野」に関する科目を配置する。隣接他分野では、「共生福祉論」を学んだ上で、「身体障害への支援システム工学」など理学療法と融合することで活躍の場を広げる科目を配置し、QOLの維持・向上や健康寿命の延伸への考えを深め、複眼的な視点や新たな発想力を養う。経営分野では、基本的な経営・マネジメントを学ぶ科目と、保健医療に関する経営・マネジメントを学ぶ科目を配置し、所属する組織における諸課題の改善に必要な能力を育成する。統合分野では、隣接他分野と経営分野の

学修を統合し、共生社会の実現に貢献しうる役割やサービスを考えることができる能力を育成する。

■ 総合科目

これまでに修得した理学療法の知識と技術を統合し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目的とする。3年次以降、実験・調査とその解析等の一連の研究課程を体験し、課題解決力・応用力を身につける。

(文責 清宮清美)